

VRによる自由が丘一丁目29番地区再開発事業および都市計画道路補助第127号線拡幅整備イメージ

※今後の計画によって変更となる可能性があります



※都市計画道路補助第127号線拡幅整備のイメージは「自由が丘都市計画道路補助第127号線整備に関する提言書(自由が丘駅前広場から補助第46号線)」を基に作成しています

目黒区はこのほど、自由が丘駅周辺地区で進められている市街地再開発や都市計画道路拡幅整備の完成時のイメージを仮想現実(VR)

R)空間で立体化し、関係者に公開した。同コンテツツは、国土交通省が推進するプロジェクト「PLATEAU」と呼

ばれる3D都市モデルを活用し、目黒区街づくり推進部地区整備課が作成した。プラトールはVR空間上に現実の都市をそっくりその

自由が丘のまちづくりをVR活用 再開発・道路整備イメージを可視化



発行：自由が丘商店街振興組合 152-0035
東京都目黒区自由が丘2-10-8
自由が丘エヌケービル3階
TEL 03 (3717) 4541
FAX 03 (3717) 4549
発行責任者：岡田一弥

自由が丘オフィシャルガイドウェブ
自由が丘

まま再現した3Dマップで、建物などに高さや用途、建築年などのデータも掲載。災害リスクや人流データなどの情報も把握でき、企業・自治体がまちづくりや防災対策のシミュレーションに活用している。

区は、自由が丘駅周辺地区の市街地再開発への支援や都市計画道路の拡幅整備、道路と鉄道の立体化に向けた調査・検討などに取り組んでいるが、区民など関係者との合意形成の過程で、従来の模約やイメージ図を使った説明に「現在と

将来の都市空間の違いがイメージしにくい」などの声寄せられていたという。そこで、令和6年度予算から約422万をかけてVRを導入。道路整備などの完成イメージを3D化することで「空間イメージの共有化を図りやすくなる」と期待する。植栽やベンチなどの位置もVR空間上で検証できるため、「関係者と議論を重ねながら内容を作り上げる」ことも可能と

将来的には「自由が丘駅周辺地区の広範囲にわたるVR作成を目指す」という。